

# イタリアの若者のキャリア形成とソーシャル・ネットワークの役割

どきちかこ  
土岐智賀子

本研究の目的は、学校生活と職業生活が分断し、なおかつ初期職業キャリア探索期（成人移行期：学校から職業生活への移行期）における社会的支援が乏しい社会において、個人の有する社会的関係と職業探索活動との関連を考察することにある。

まず、キャリア形成における他者の役割に関する研究、近年の若者研究、ならびに本論で用いるソーシャル・ネットワークアプローチ研究についてレビューをする。

次に、本研究の対象者であるイタリアの若者がおかれた社会的状況を、教育・雇用・家族制度との関連から概観する。その中で、若年層の雇用状況の厳しさ、高学歴化していること、家族主義でそれ以外の社会的支援の少ない成人移行期の状況を説明する。

そして、本研究の主要な問いである「職業探索期間に社会的支援が乏しい社会において、若者が将来展望を描きにくい条件とは、ソーシャル・ネットワークの閉鎖性である」についてイタリアの女子大学生のインタビュー調査をもとに検討する。分析結果として、親子関係と地元つながりの同質的な友人関係が重要な位置を占めていることを確認し、そのために社会関係が広がりにくい傾向にあることを示す。閉鎖的な社会的関係を有する人にキャリア形成・職業に関するロールモデルならびに適切なアドバイス・情報をもたらす人との出会いが乏しいこと、中・長期の将来展望が描けていなかったり、就職探索活動の先延ばし傾向がみられたり、就職活動に直面して困惑している事例を示す。その一方で、インターンシップやアルバイト等の就業体験によって、職業に関するロールモデルや、適切なアドバイス・情報をもたらす支援者との出会いをし、それを契機に具体的な就職活動を行っている事例、将来展望を形成している事例等を示す。これらの分析をもとに仮説が一部検証されたことを述べる。またこれらの分析の中で、キャリア探索期において他者がどのような点で寄与しているかをみていく。親が、ロールモデルや職業情報の紹介、精神的なサポートの複合的な役割を担っている事例も示される。

最後に、本研究から導き出されるインプリケーションとして、学校から職業生活への移行期にある若者がかつてなく受け入れている大学が、大学内外の市民と連携した移行期支援を推し進めていくこと——「メンター制度」の導入——の提言を行う。